

ネイチャー高知

No 41 2013年7月28日発行

自然しらべ2013 日本のカメさがし に挑戦してみませんか

自然しらべ2013は「日本のカメさがし」です。近くを流れる神田川でカメさがしをしてみました。以外にも「世界のうちでお前ほど歩みののろい」生き物ではなくて、人の動きに非常に敏感でした。普通に歩いていると反応しませんが、立ち止まって写真に写そうとすると気配を感じて水の中や草むらへ逃げ込んでしまいます。

気配を殺して、慎重に調べると、高知市の住宅街を流れる神田川でも多くのカメを見つけることができました。

4ページから5ページに松本さんの観察記録を掲載しました。皆さんも近くの池や川、水田でぜひともカメさがしに挑戦してみてください。カメについて多くの新しい発見が得られると思います。



高知県でよく見られるカメ

左上：ニホンイシガメ <日本固有種> 右上：クサガメ <在来種>

左下：ニホンスッポン <在来種> 右下：ニホンスッポン <在来種>

※最近の研究では、江戸時代に日本にやってきた外来種であるという説もある。

(NACCSJ パンフレットから引用)

わたしのフィールドノート 綺麗な花には毒がある？

田城 光子

たまたまわたしたチャンネルで、国立科学博物館の標本庫を見学する、という番組があった。しかもそのたまたまは、2週連続であった。動植物はもちろん、多岐にわたる標本の種類と数は膨大なものであった。標本作りをする場所は、まるで何かの工場のようなところもあるし、手づくりの道具を使ってひとりこつこつと作業する人の背中からは、研究者というより職人のようにも見えた。番組の最後に、標本庫で働く人達への、インタビューがあった。趣味と仕事を同時にさせてもらっているのが、満足の毎日だが、ただ、標本に向き合っている時に受ける感動を、理解してくれたり共有してくれる人が、世間には少ない。それがさみしい、と話した人がいた。寝転んで見ていたわたしは、思わず起き上がり、「うん、わかる、わかる！」と画面に向かって叫んでいた。

綺麗な花を見に行きたい、と言う人はたくさんいる。でも、「イネ科やカヤツリグサ科を見に行きませんか」と話しかけても、「あんまり好きでないから」とか、「光子さんが思うように、わたしには綺麗だと思えないから」とか、断られることが多い。共感を得られないと、調査もスムーズには進まない。こんな時、あの研究者のように、本当に寂しさを感じる。

だから、というわけではないが、今年は誰も見たい！と思うだろう、花の綺麗な植物の調査に行く事にした。ガガイモ科（DNA解析による分類法でキョウチクトウ科に変更になった）のシタキソウである。シタキソウは、高知県内での採集標本が少なく、比較検討すべき点があるにもかかわらず、その作業が進んでいない、と聞いたからだ。ガガイモの仲間にしては花が大きくしかも真っ白で、その果実はぴんと横にはった面白い形をしている。海岸のマント群落からかなり標高の高い内陸部まで分布しているが、開花結実は圧倒的に海岸に近い場所が多いように思う。

植物誌調査では、一エリアから標本はひとつ出せばよかったので、複数の標本を比較して観察するということまではいかなかった。標本は多いほどよいと、あのテレビの中で研究者も言っていた。今年は、少しでも多くのシタキソウの花を集めてみよう、そう思った。

梅雨の晴れ間をみて、黒潮町、大月町、土佐



6月4日大月町で木村宏さん撮影

清水市の海岸沿いをまわった。個体数は決して少なくはないし、開花しているものもかなりあるのだが、なにせ他の植物に絡まって高く蔓をのばしている。6mの高枝切りでも、なかなか届かない位置にあるものが多い。採集できるのはわずかだった。しかし、そのわずかな標本にも、ずいぶん差があることに気がついた。葉の大きさ、裏面に見える葉脈の隆起のし具合、花柄、小花柄の長さ、花冠の大きさ、など、ひとめでわかる大きな違いである。これがたんなる個体差なのか、地域や生育地の環境の差なのか？素人のわたしにはまるで別種に思えるほどの違いがあった。もっと多くの標本がそれぞれの環境から集まれば、いろいろな疑問が解かれていくだろう。

シタキソウには、まだまだ他にも不思議なことがたくさんあった。必ずと言っていいほど、葉が何者かに食べられている事。枝や葉を切ると白い汁が出る事、純白の花の中から黒くて強い香りのする液がしたたり落ちること。まだ根元付近の蔓を見たことがない。等である。根元の確認は、痛い目にはあったが、比較的簡単にできた。道端にある個体のまわりの、鋭い棘のあるノイバラや、スイカズラ、アケビなどの絡まりついている植物を少しずつ切っていくと、シタキソウの蔓の先端部分から次第に根元に向けて辿っていくと、茶色で縦に割れ目のある部分に行きついた。丸い皮目が多く対生する葉痕がある、まだ新しい枝の部分は緑色をしている、ことなどがわかった。シタキソウの蔓をほぼ根元から先端まで通してみることは初めてだった。蔓植物は、他の植物にからまったり寄りかかったりしながら長く高く、日の当たる場所まで伸びていき、そこで開花結実する。根元と先端の位置が一致しないことが多い。したがって先端の花や果実、葉だけを見て、全体を見ない事が多いのだ。葉っぱの食べ跡は、その後アサギマダラの中令幼虫が別の個体からみつき、同じガガイモの仲間のキジョランだけでなく、シタキソウも食草にしていることがわかった。まだわからないのが、植物体から出る白い汁と黒い液。キョウチクトウ科で、アサギマダラの食草とくれば、シタキソウも毒を持っているにちがいない。どんな味がするのかなめてみたい誘惑にかられたが、さすがにこれは怖くてできなかった。これまで海岸に生育するものを見てきたが、内陸部のものはどうだろう。まだまだシタキソウの全貌を見ることができないが、梅雨の空を見上げてみると、あっというまに花期が過ぎていく。課題は残るが、花が終われば来年の開花を待つしかない。こんなにも美しくて妖しい花だもの、一声かければすぐにみんなが集まってくれるだろう。その時は、シタキソウにちょっぴり嫉妬しながら、また会いに行くことにしよう。

安芸城跡のお堀でそっと眺めれば・・・

～NACS-J 自然しらべ2013 日本のカメさがし～

松本 孝（自然観察指導員登録 NO.17502）安芸市土居

私が住む安芸市土居廓中には安芸城跡があります。武士の世になり土佐七豪守護といわれた豪族が城をかまえ、安芸には安芸氏があり、安芸城は安芸氏の居城でした。安芸城について個人が書き記したものがあり、思うままに書いたところもあるかと思いますが、先人たちの生き様を伝えようとしていると感じ、安芸城跡について私が聞いている、子どもたちに話す機会に話している内容は、この書き記した内容より概略を引用しています。お堀に関することもあり、その概略は次の通りです。

「安芸氏は川北に城を構えていたが要害（敵を防ぐのに都合のいい場所の意）の点より土居に移り住み、土居は独立した小山で、城といっても内堀と大手門が体形をなしてただけで、山は地形を生かして三段に均し、最上段に茅葺の物見櫓のほか、何物もなく建物は平地にありました。」

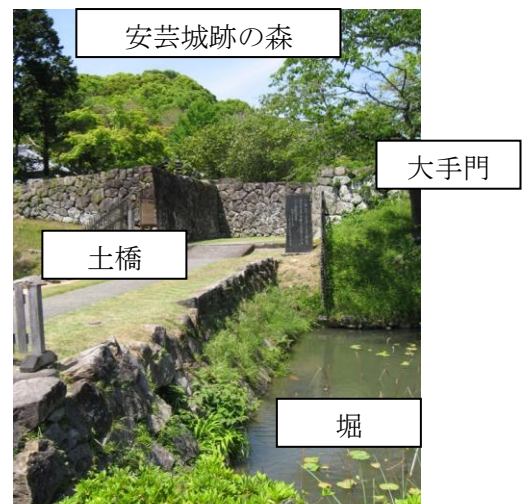
安芸城跡の東側に安芸川が流れていますが、安芸市教育研究所が昭和52年に発行した「子ども郷土史」によると、安芸川は昔は大水ごとに流れを変えたあばれ川で、水の勢いであちこちと流れを変えたとありますし、私も地域の方に話をうかがうと安芸川はあちこちに流れていたことを聞きます。

個人が書き記したものによると、「安芸川は天神坊（「てじぼ」と読みます。安芸城跡の北側に天神坊橋という橋があります）より南下させて東の山沿いに海に流す計画をしたとあり、それには浜より木馬道を作り、浜より大石を運び、川勢を南に変え、外濠が城を取り巻いていた」とあります。

その後、安芸氏は長宗我部氏と戦になり、安芸氏は戦に敗れ長宗我部氏がおさめていましたが関が原の戦で長宗我部氏が亡びると山内氏が土佐をおさめ、山内氏の家老の五藤氏が土居に入り、街区を整えて今にいたるということになります。

中世の時代のもの、近世の時代のものなどの風景の記憶が刻まれている武家町の地に、私たちは日々暮らしており、昔から受け継いできた歴史をこれからも大事にしていきたいと思っております。

そんな安芸城跡のお堀にある土橋を私は通るとき、そっとその角に立ち、堀を眺めてみます。だいたい同じ場所にカメがいるからです。それを知っている子どもたちもここを通るときそっと眺めています。



（撮影：平成25年5月8日 午後1時ごろ）

安芸城跡の堀には白い花が咲く蓮があり夏に向けて葉が伸び、今思うと撮影した5月ごろがカメを見つけやすい時期かもしれません。

よく見るのはクサガメとミシシippアカミミガメ。同じ場所に並んでいることもあります。クサガメは1匹～3匹、ミシシippアカミミガメは1匹で見ます。

スッポンもいるよう？似た姿のカメを1匹いるのを見たこともあります。首を長くのばし灰色しておりました。見たという人もおられます。私も何度か通り、スッポン？を撮影しようと思うのですが、そう思うと遭遇することがないものです。

また通るときに見てみようと思います。死んだカメが浮いているのを見たこともあります。



この堀にいるカメはだいたい同じ場所にいます。東側の堀でよく見ます。この日もいました。近寄ると堀の水の中にドボンと入ります。



ミシシippアカミミガメ（左）と死んで浮いていたカメ（右）

死んでいたカメは何カメ？（すくって見ようとは思いませんでしたが・・・）浮いていたカメを魚がつついていきます。

安芸市立歴史民俗資料館が年3回開催する「しろやま たんけん」。今年の第1回目は7月13日（土）に開催します。

ここ数年、蓮の観察や夏の暮らしに関することをおこなっており、今年も継続しておこなう予定でいます。蓮は朝の花。時間は午前9時からです（～11時まで）。

今年はお堀をいつもより時間をかけて「たんけん」するものいいかなと思ったりします。このお堀の歴史を知り、今に伝わる時間を感じ、これからも有り続けることを念願しながら。

そしてそこに棲まう生き物たちを観察できたらと思います（暑さには十分注意です）。

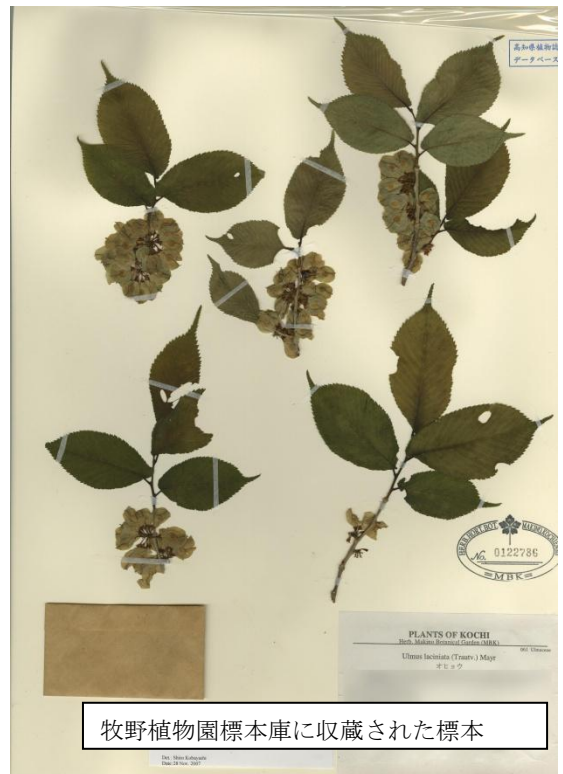
7月に入り、今年も白い蓮の花が咲き始めました。

野山の拾いもの オヒョウ

坂本 彰

植物の標本は、花、種子、葉、根といった各器官がそろっているものが良い標本とされ、採集する際には気を配っている。樹木の場合には、幹や根を採集することができないので、葉と花や実だけのものになってしまう。といっても、樹高が高い木の花や実をとるのはなかなか骨が折れる。2011年から始まった高知県植物誌の調査の際、高い所の枝を切るために、小型で柄の部分にネジを溶接し、磯釣りに使うタモの柄にねじ込むことができる出来る鎌を特別に作ってもらった。それでもタモの柄は4mほどだから、身長を足しても5・6mの高さしか届かない。高木の場合、10mを超す高さに花や実があることがしばしばである。

オヒョウ (*Ulmus laciniata* (Trautv.) Mayr) は、深い山中に稀に自生する落葉高木とされるが、西熊山（三嶺・綱附森）の溪谷には、溪谷林を代表する樹木として存在が知られていた。樹木を勉強した方の中には、樹皮あるいは葉を見ただけで樹種が判別できる方がおられるが、私の場合はブナ、ケヤキ、トチノキといったポピュラーな木だけしかわからない。せめて目の届く範囲に花や果実があれば、それを手掛かりに探すことが出来るが、オヒョウの場合はそのような高さではなく、特注した鎌と長いタモの柄を使ってもとれそうになかった。その存在が知られていながら、証拠



となる標本を採集できないのは本当に残念で、何とか採集できないものかと考えていた。

2005年5月29日は三嶺を守る会が主催する清掃登山の日で、私は山の会の仲間と前日からお亀岩の小屋に泊まり込み、お亀岩小屋周辺の清掃活動に汗を流した。ついでにという訳ではないが、植物採集にも時間を割いた。この時の採集記録を見ると、ハスノハイチゴ、イトマキイタヤ、ヤシャブシ、ハクサンハタザオ、ヤマトボシガラ、オオイタヤメイゲツ、クロフネサイシン、ナンゴクミネカエデなどを結構貴重なものを採集しており、これらはいずれも牧野植物園の標本庫に収蔵された。ハクサンハタザオとオオイタヤメイゲツについては、標本の写真が高知県植物誌付録のDVDに収録されている。清掃活動が終わってお亀小屋から光石登山口へ下山途中、

カンカケ谷の標高 1400mあたりで拾ったのが、葉と実の付いた樹の枝の先端部分だった。たくさん落ちており、多分ムササビが食事中に落としたものだろうと推測した。枝の先端部分だけであることが少し気になったが、落ちたばかりで、葉も実もついており立派な標本になると思い、野冊に挟んで持ち帰った。図鑑で調べると探していたオヒョウであった。新聞紙に挟んで乾燥させると立派な標本になり、こちらも DVD に収録された。清掃登山は、三嶺を守る会が発足以来毎回参加しており、その感謝の印としてムササビが落としてくれたものと勝手に解釈した。

今年は5月26日に清掃登山が行われた。土曜日の夜に香北町で用事があり、泊まり込みでなく日帰りの参加になったが、担当したのは2005年と同じくカンカケ谷・お亀岩避難小屋コースであった。シカの食害によって荒れ果てたカンカケ谷を登っていくと、小さな沢を渡る手前に2005年に採集したと同じものが落ちていた。三嶺周辺は、シカの食害によって2005年ごろには考えもつかなかったほど荒廃が進んだが、一方では8年前と同じ営みがなされていると感じ、少し安堵した。



2013年5月26日に「採集」したオヒョウの若い果実と葉

行事案内

初秋の草原の植物観察会

日時 8月31日(土曜日) 午前9時から12時

場所 高知市高見町 皿ヶ峰周辺

筆山頂上西下の駐車場にお集まりください

講師 稲垣典年さん(連絡会会長)

持ってくるもの 筆記用具、あれば図鑑 暑い時には飲み物もお忘れなく

雨天中止です

夏の企画展 わんぱーく自然塾

開催地： わんぱーくこうちアニマルランド

開催期間： 2013年7月18日～2013年9月3日 9時～17時 水曜日休園

※8月14日は臨時開園

開催趣旨 開園から20年。わんぱーくこうちにもいろいろな生物が住むようになった。そんな身近な生物を紹介する。夏休みの宿題のヒントになるかも？

会費納入のお願い

会費未納の方は会費(年間1,000円)の納入をお願いいたします。

納入方法は郵便振替が安価で便利です。郵便局備え付けの振替用紙を利用して、振込みをお願いいたします。(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は口座振替も利用できます)

郵便振替の振込口座番号は 01630-9-41422

加入者名は 高知県自然観察指導員連絡会 です

「ネイチャー高知」高知県自然観察指導員連絡会会報

NO 41

事務局 780-8075 高知市朝倉南町3-51-1 坂本彰 方

TEL&FAX 088-850-0102

E-Mail s-akira@mvd.biglobe.ne.jp